

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071901591		
法人名	有限会社 幸心コーポレーション		
事業所名	グループホーム 心笑み 伊田		
所在地	〒825-0001 福岡県田川市大字伊田3764番地1 Tel 0947-46-4248		
自己評価作成日	令和03年12月16日	評価結果確定日	令和04年02月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294
訪問調査日	令和04年02月09日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様には、家庭的でゆったりとした雰囲気の中で穏やかに過ごして頂いております。「あなたらしさを大切にします」という理念のもと、入居者様お一人お一人の個性を尊重しながら、日々の対応をさせていただきます。提携の内科医、訪問看護ステーション、訪問歯科の訪問もあり健康状態にも留意しています。事業所名の「心笑み」に沿って、入居者様が心から安心し笑顔で過ごせるようにスタッフ一同努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「心笑み 伊田」は、18年前に地域の要望を踏まえて開設した地域密着型事業所である。近隣住民に見守られ、住み慣れた地域の中で共同生活を送りながら、利用者一人ひとりの身体機能維持向上に取り組んでいる。提携医療機関医師の月2回の往診とかかりつけ医への受診支援、訪問看護師、看護師である管理者、介護職員との連携で安心の医療体制が整っている。お寺の住職による2ヶ月毎の法話、ひよっとこ踊りや歌のボランティアの来訪、法人内他グループホームとの交流を楽しみ、個別の支援としては、聴力言語障害者の料理教室への参加や認知症デイケアの利用等、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。入居後、明るい笑顔を取り戻した利用者を見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族と深い信頼関係が築かれているグループホーム「心笑み伊田」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様お一人お一人を大切に、家庭的でゆったりとした環境の中で地域と共に過ごして頂きたいという思いを元に理念を掲げ、日々のケアに取り組んでいる。また、目に付くところへの掲示と朝礼時に唱和することで理念の共有、実践に努めている。	介護理念を見やすい場所に掲示し、「あなたらしさを大切にする、家庭的でゆったりとした時間、場所づくりを行うこと、地域との交流を支援すること」を職員一人ひとりが常に意識して介護に取り組み、利用者本位の自由であるがままの暮らしの支援に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	古賀町7組の町内会に加入しており、回覧板等にて情報を得ている。コロナ過により地域活動が中止となっているため、地域行事への参加ができない状態だが廃品回収の協力はさせて頂いている。また、日頃から近隣住民の方と交流しており、野菜の差し入れや悪天候時には安全確認の電話連絡をしてくださるなど、心強いご協力を頂いている。	コロナ対策以前は、町内会に加入し、回覧板から地域の情報を収集し、清掃活動には職員が参加していた。高校生の実習、ボランティアの受け入れ、2ヶ月毎の住職の法話を行い、利用者の楽しみとなっていたがコロナ化で現在は自粛している。地域の方から野菜の差し入れや、「何かあったら何でも言っ」という温かい声掛けがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方は介護・障害者施設従事者や介護に対して協力的な方が多く、大変心強い支援をいただいている。徘徊者の発生時はすぐに知らせ、発見した際は、名前を呼び掛けて頂く、一緒に歩きながら施設に連絡していただくなどの支援方法を伝えている。地域の方から支援の方法を聞かれることもある。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、地区民生委員、地域包括支援センター、ご家族代表の方が構成員として参加。会議では入居者の状態、ホームの現状、行事や取り組みなどを報告し質問やご意見・ご要望をいただきサービスの向上に努めている。	コロナ対策以前は、2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員が参加して、利用者の健康管理、地域との関わり、現状、日々の生活状況、衛生管理、研修報告、防災対策等について報告を行い、参加委員からは質問や意見、情報提供を受け、出された意見等をサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一回の運営推進会議にて現状や取り組みについて発表し意見交換を行っている。福祉事務所との連携、また地域包括支援センターや社協からの入居も視野に入れながらの支援相談等もあり、協力関係を築いている。	管理者は行政窓口空き状況や事故等を報告して、疑問点があればその都度問い合わせして協力関係を築いている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回の身体拘束適正委員会及び年2回の身体拘束についての内部研修を開催しており「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解できるよう努めている。身体拘束をしないケアは日頃から実践しており、現在、該当者はいない。	身体拘束適正化委員会に合わせて職員研修を実施している。管理者やケアマネージャーが外部研修を受講し、資料を持ち帰り伝達研修を行うことで周知を図っている。身体拘束となる具体的な行為について検討し、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない、させないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、虐待防止について内部研修を開催しており、身体的虐待はもちろん、無意識な言動が心理的虐待に繋がることなどを日頃から周知徹底している。管理者・職員は、入居者に対する接し方に常に注意を払い虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人がついている方、成年後見制度の利用を進めている方もいる。管理者・職員は実際の状況から制度を理解し、学ぶ機会を得ている。現在、進めている方については包括支援センターの職員と協力関係を保ちながら活用できるように支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを玄関に用意し、必要時時には、制度の内容や申請方法を説明し、関係機関に相談出来る体制を整えている。管理者やケアマネージャーが権利擁護の制度に関する外部研修を受講し、伝達研修を通して職員に周知を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約や改定等の説明時には一つひとつ分かりやすいように説明している。ご家族や本人の表情、返答の仕方にも注意を払いながら穏やかな態度で対応し、不安がないか、分からないところがないか確認しながら行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは密に連絡を取っている為、その都度心配や要望がないかなど確認している。外部の苦情相談窓口も案内しており、管理者、職員共に意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。意見、要望があった際には職員に周知して改善できることは実行したり、内容に応じて代表者へも相談を行い、運営に反映できるよう努めている。	ホームの日常生活の中で職員は、利用者の思いや意向を把握している。家族の面会時や電話等で、意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させている。また、利用者の笑顔の写真をたくさん載せた「心笑み便り」を毎月送付して、利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。	コロナ収束後には、家族が参加しやすい行事を兼ねた家族交流会を開催し、家族とコミュニケーションを取りながら信頼関係を築き、意見、要望が表せる機会を設けていく事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を言える場を作っており、常に職員の意見を提案できるように配慮している。意見、提案に対して職員全体で話し合い、内容に応じて代表者に相談しながら運営に反映させている。	毎月、その日の出勤職員が参加して職員会議を開催し、意見や要望、提案等を出し合い、ホーム運営や業務改善に取り組んでいる。毎日の申し送り時に、職員の気づきや心配事を話し合い、管理者と相談して、利用者の日常介護や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は司法書士と相談しながら改定や改善をしている。また処遇改善を活用し職員の経験や実績、努力を反映させている。労働時間、条件については職員一人一人の事情を汲み取りながら働きやすい職場づくりに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別の制限はしていない。高齢の方でも働きやすいよう各自の事情に合わせて雇用しており社会参加、自己実現の権利が保証されるよう配慮している。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、職員一人ひとりが個性を発揮しながら、生き生きと働ける就労環境を目指している。職員のロッカーや休憩室を整備し、休憩時間(1時間)の確保や一人ひとりに合わせた勤務体制や希望休に配慮し、リフレッシュしながら働ける環境整備に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修等にて人権に関する研修を行っている。管理者は、入居者の心を常に意識しながら業務を行うように職員教育をしており、「あなたらしさを大切にします」という理念のもとに日々の処遇にあたっている。	利用者の人権を守る介護サービスについて、外部研修を受講した職員が、伝達研修で報告し全職員の周知を図り、利用者の尊厳や権利を守る介護の実践に取り組んでいる。また、職員は常に理念を意識し、利用者の「あなたらしさ」を大切にした介護サービスを目指している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合った研修の案内を行っているが、コロナ過により外部研修には参加しにくい状況があった。内部研修では専門的な技術や知識を深められるような内容を取り入れており、技術や知識を持つことの重要性・必要性を周知し、トレーニングしていくことを進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の訪問や電話連絡などで交流の機会を持ち、ネットワークづくりをしている。意見・情報交換をすることでサービスの質を向上させられるよう努力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に当たっては、可能な限り、事前に施設見学や面談をしていただいている。その際に本人様の希望や意向を伺ったり、認知症状でうまく伝えられない方にも、一日の流れ、サービス内容、行事などの説明や、安全で楽しい生活が送れるようお手伝いしていくことをお伝えし、少しでも安心感を持っていただけるように努めている。また、ホームでの生活に慣れるまでは声掛け見守りを強化し不安なく過ごせるように配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設見学や面談をしていただき、ご家族のお気持ちを伺いながら、不安の解消、要望に応えることができるよう努めている。また、必要に応じてご入居の翌日や数日後に、ご連絡をし、本人様の様子を報告することで信頼関係を築けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	健康状態、心身状態をお聞きしながら「今」入居が必要かどうか、他のサービス利用の必要性、医療の導入などを見極めながら対応している。状況に応じて具体的なサービス例なども併せて助言を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯量みや、トレイ拭き、下膳、テーブル拭きなど簡単な掃除を共に行うことで自尊心を保ち、意欲的な生活ができるよう努めている。その際、お礼やねぎらいの言葉を掛けることで役に立っていることを感じて頂いている。また、会話を持つことで昔の事や知恵などを学び支え合う関係づくりに務めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望や意向に沿って、受診時、外出(買い物やドライブ、美容院など)を共に行ったり、面会時のコミュニケーション等で本人とご家族の絆を大切にしている。またご家族の思いを伺ったり、日頃の様子を伝えることで職員との信頼関係が深められるよう努めている。※コロナ過により制限の調整をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室へ外出したり、受診等で外出した際には、自宅近くをドライブしたり、ご家族を通じて馴染みの人との近況を伝え合うなど関係が途切れないように支援している。	訪れやすい雰囲気作りを心掛け、家族や親戚、友人や知人の面会を歓迎している。コロナ対策以前は、家族が利用者と一緒に買い物や外食、馴染みの美容室に出かけ、利用者が長年築いてきた人間関係が継続出来るように支援していたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方、相性が合わない方の関係を把握している。仲の良い方とは隣同士に座って頂くなどで関わっていただき、相性が合わない方とはトラブルにならないように留意しながら、レクリエーションなどの機会に楽しく交流ができるよう支援することで関係が良くなるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かの折には連絡をし、近況や、ご家族の思いを伺っている。必要に応じて、励ましや助言をおこなうことで経過フォロー・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いをよく聞くように配慮し、希望に添いながら気持ちよく過ごせるように努めている。入居時には生活歴や性質、趣味なども聞き取っているが、以前の生活の中で知りたいことが出てきた際は、その都度家族に確認しながら、処遇に反映されるよう努めている。	ホームでの日常生活の中から職員は、利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で情報を共有し、介護サービスに反映させている。意思の疎通が難しい利用者には、家族に相談したり、職員が利用者に寄り添い話しかけ、利用者の表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当の介護支援専門員からの情報や本人、ご家族からの情報をもとにこれまでの暮らしを把握できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時、心身状態を観察しながら現状の把握に努めている。日々変動のある方は特に留意して観察しその時々に合わせて支援を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なサービス担当者会議の開催以外にも、必要時には課題、ケアのあり方を検討する機会を設け、本人、ご家族の意見を把握し、良い暮らしが実現できるよう計画を作成している。また介護計画に対する評価表を作成しており、職員は計画に沿った支援が出来ているか確認できる仕組みを取り入れている。	家族の面会に合わせて担当者会議を開催したり、無理な場合は電話で家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、6ヶ月毎に介護計画を作成している。利用者の状態に変化に合わせて、家族と密に連絡を取りながら主治医に相談し、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきや工夫は口頭でも伝えあいながら、個人記録等に記入し職員間で共有している。気づきがあった際は介護計画を見直し、反映させ実践に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身状態、ご家族の状況、意向を踏まえ個別に、柔軟なサービスを受けることができるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用をし、本人が自身の力を発揮できるよう支援していたがコロナ過により参加が困難となってきた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については入居時に希望を確認し、希望と必要性に応じて対応している。受診には同行し、日々の状態報告をしながら適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望を聴きながら話し合い、協力医療機関の医師による月2回の往診と馴染みのかかりつけ医の受診支援に取り組んでいる。受診は看護師である管理者や主任が家族と協力しながら同伴し、家族と利用者の医療情報を共有している。訪問看護ステーションと情報を共有し安心の医療体制を整えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所が提携している訪問看護ステーションより週1回訪問があり、日々の状態報告や相談をしている。突発的な状態変化の際にも対応していただき、適切な受診・看護が受けられるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病棟看護師やSWと連絡を取りながら状態の把握に努めている。本人の状態に応じて、できるだけ早く退院できるよう退院時の受け入れ環境を整えている。また、定期的に各病院の地域医療連携室などを訪問し、関係づくりを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは入居時に意向の確認と事業所でする事の説明を行っている。状態に応じてその都度、本人・ご家族と話し合いながら今後の対応や支援の方法を検討し関係者とのチーム支援ができるように努めている。	「重度化した場合の対応に関わる指針」を基に、契約時に看取りは行わない事を利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医を交えて今後の方針を説明し、利用者や家族が安心できる最善の方法となる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて訪問看護師に急変時、事故発生時の対応方法を学ぶ機会を設けたり、気になることがあった時には訪問看護師に助言を受けながら実践力を身につけることができるよう努力している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練(通報・消火・避難)を行い、万が一に備えている。災害時には近隣の住民から避難協力をいただけることになっている。	年2回、通報訓練と避難訓練を実施し、非常時の通報装置の使い方、避難経路、避難場所の確認を行なっている。また、非常食、飲料水、非常用備品の準備をして災害時に備えている。	夜間帯は職員が1名になるため、職員が利用者役になり、夜間想定避難訓練を繰り返す事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、本人の自尊心を傷つけないように、プライバシーを損ねるようなことをしないように、声掛けや対応の仕方について十分注意して接するように心掛けている。	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、特に排泄や入浴の場面では、大きな声や、あからさまな介護にならないように注意している。また、職員の守秘義務や利用者の個人情報の取り扱いについては、管理者が職員に説明し、周知徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自ら思いや希望を表すことができる方はもちろん、自ら伝えることが困難な方にも、日常生活の中で本人の様子や言動に留意し、何か思いを抱えている様子が伺えた際には、希望を尋ね、自己決定できるよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや思いを尊重し、職員の都合に合わせることにないように留意しながら日々の支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回の訪問理美容での散髪や、希望者は行きつけの美容室への外出もしている。自由に衣服を選んだり、できない方も整容のお手伝いやその人に合わせたおしゃれができるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症状にて調理や準備ができない方がほとんどである。但し、食事を楽しくできるように毎食前に献立を披露し、好みの確認をしたり楽しみになるように努めている。また、下膳やトレー拭き、テーブル拭きのできる方は危険のないように見守りながら行っている。	食材を外部の業者に発注して調理をする中で、利用者一人ひとりの状態に応じて刻み食やミキサー食を行い、それぞれが食べやすい形態にしたうえで提供している。時にはホットケーキを焼いたりして手作りのおやつを楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者様一人ひとりの食事ペースや摂取量、状態、能力、習慣を把握している。嚥下や咀嚼機能に合わせた形態で提供、水分摂取量が少ない方には声掛けで促したり、食事開始時に動作の声掛けが必要な方、食事途中で残っているものを食べるように促しが必要な方など、個々に合わせて支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に本人の能力に合わせて、声掛けや一部介助、うがいができない方はスポンジ等で拭き取るなどの口腔ケアを実施している。また毎週月曜日に提携歯科医の訪問がある為、専門医による口腔ケアの実施、相談や助言を頂ける体制がある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行うなど排泄の失敗がないように取り組んでいる。できるだけオムツに頼らずトイレで排泄できるように支援している。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、排泄支援に取り組んでいる。また、骨折や入院でオムツ使用となっていた利用者も、退院後、早い時期にオムツ外しを行い、利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘が及ぼす影響を理解しており、排便の観察に留意している。日頃からなるべく水分を多く摂取できるよう声掛けをし、水分摂取が少ない方には食間にお白湯を提供。個々の状態に合わせて運動や腹部マッサージも行っている。また、おやつにバナナやヨーグルト、りんごを取り入れるなどスムーズな排便ができるよう工夫している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回、入浴日を設定しているが、希望があれば入れるように柔軟な対応を心掛けている。また他の入居者との兼ね合いも見ながら「早く入りたい」「後で」などの希望に添い、本人のタイミングに合わせられるよう支援している。	入浴は週2日を基本としているが、夜間や入浴日以外でも利用者の希望を優先して入浴出来るよう支援している。また、入浴は利用者と職員が1対1で会話しながら楽しい入浴となるよう取り組んでいる。入浴拒否の利用者には、時間をずらしたり、職員が代わって声掛けする等、無理強いのない入浴支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の違いを理解し、本人が自分のペースで自由に休息できるよう支援している。就寝・起床時間も状況や希望に合わせて、それぞれのリズムに合わせている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも閲覧できるところに薬剤情報を設置している。また、一人ずつのお薬の写真入りの表と内服薬チェック表を作成しており、その日の勤務者2名で翌日の内服薬が間違いなくセッティングされているかチェックしている。変更があれば、その都度、送りノートやチェック表に記入し、職員全員が把握できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることをしていただくことで役割を持つ喜びを感じて頂けるよう配慮している。また、個人別の楽しみや様々なレクリエーション活動、おやつや食事の工夫で楽しんで頂いたり気分転換が図れるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症状のため、はっきりとした意思表示ができない方が多いが、日頃、発する言葉から、本人の意思を汲み取るように留意し、希望に添った外出ができるよう支援している。	利用者の重度化や高齢化が進み、以前に比べて外出の機会は減っているが、病院帰りに少し遠回りしてドライブを楽しんだり、大任町桜街道にコスモス見物に出かけたり、系列の他グループホームに出向いて合同でのレクリエーションを楽しむ等、利用者の気分転換を図っていたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状により金銭管理が困難であるため、事務所に管理しているが、本人が自由に使えるお金があることを伝え、欲しいものがある時はいつでも対応できるようにしている。また買い物希望がある際は同行できる方は同行し、好きなものが買えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚や友人、知人との良い関係を継続していけるよう電話や手紙のやり取りがスムーズにできるよう支援していた。現在はできる方がいない。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では室温調整と本人の体温調節機能に合わせて衣服の調整を行うことで快適に過ごせるよう留意している。また、日照に合わせてブラインドの開閉や不快や混乱を招くものを排除するなどの工夫、季節・行事に合わせた壁飾りの工夫などで居心地の良い空間づくりに努めている。	玄関周りには季節の花が植えられ、利用者と職員と一緒に制作した貼り絵等の作品を廊下に掲示し、季節を感じられるようにホーム内の環境を整えている。リビングルームは、利用者に居心地良く過ごしてもらえるよう、職員が知恵を出し合い工夫を重ね、整理整頓や清掃にも気を配り、気持ちよく過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを2ヶ所に設置することで一人で過ごす時間や仲の良い方と共に過ごす時間を儲けることができるようにしている。。また必要に応じて予備の椅子も使用している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を好きなように配置したり寝具などの馴染みの物、好みの物を置くことでできるだけ自宅に近い雰囲気づくりをし、居心地の良い居室になるよう工夫している。	利用者が使い慣れた筆筒や机、椅子、仏壇、生活必需品、家族の写真等を、家族と相談しながら持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに過ごすことが出来る環境作りを心掛けている。また、小まめに換気や清掃を行い、気持ちよく過ごせる明るい雰囲気のある居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の居室には表札があり、トイレや洗面所等にも貼出しをしている。またトイレには「空いています」「使用中」の札を下げ裏返して使用している。不便や危険がある場合は改善を図り、一人ひとりが自分であることを維持しながら安全に生活ができるよう工夫している。		